

株式会社ネットワーク（登別市）

○基礎情報【経営形態：野菜生産、レストラン営業、造園施工・花苗生産販売】
【従業員数：13名、A型事業所利用者数：29名】



レストラン外観

<問い合わせ先>株式会社ネットワーク ☎ 0143-85-1145

1 農福連携に取り組んだ経緯

代表取締役の岩浅真純氏（68歳）は約40年前に造園業を立ち上げたが、自身が身体に障害を持っていることから、障害者と共に働くことを考え、平成10年に障害者3名を雇用して花苗生産を開始した。

その後、約10年で障害者の雇用を最大17名まで増やしたが、作業効率が落ちて経営が悪化したため、登別市に相談したところ、平成18年4月に障害者自立支援法が施行されたことを知り、壮瞥町で農福連携に取り組む「合同会社農場たつか一む」の協力を得て、平成21年10月に自ら就労継続支援事業所を立ち上げた。

2 取組内容

- (1) 就労形態：就労継続支援A型事業所（定員40名、現在は知的・精神・身体の障害を持つ29名が利用）
- (2) 作業場所：自社が運営する農園、レストラン、花苗ハウスなどで就労。
- (3) 就労時間：8:00～17:00（休憩は午前30分、お昼1時間、午後30分）
月22日、年間264日以内
- (4) 通勤方法：住居近くの幹線道路まで車で送迎。
（一部利用者は岩浅代表が隣地で運営するグループホームに入居）



野菜生産農園

3 取組の特徴

- (1) 障害者が安全に働ける作業環境を作るとともに、妊婦や子供に安心して農作物を食べてもらうため、無農薬野菜栽培の研究を重ね、自社敷地に隣接する原野を登別市から購入及び借り受けて計5haを農地として開拓し、農業生産法人としての認定を受けた。
- (2) 平成30年11月にオープンした農園レストラン「大地のnima（ニマ）」において、自社農園で収穫した無農薬野菜を使用した料理を提供しており、登別は温泉に観光客が多く訪れることから、農福連携を観光に結びつけた取り組みにしたいと考えている。（岩浅代表の次女がレストランの責任者）
- (3) 農園では4名が農作業に従事し、そのうち3名が障害者である。（岩浅代表の長男が農園の責任者）
農園内は通路を広く確保したり、トイレを複数設置するなど、障害者にも働きやすい環境を作っている。
- (4) 農園では農産物の有機JAS認証、JGAP認証を取得しており、収穫した野菜は自社レストランの食材として使用している。
- (5) 農園の一部を使用し、地域の子供たちに農作業を体験してもらう「青空農園」を毎年度開催している。

4 障害者就労への考え方

- (1) 農作業の繁忙期のみ障害者に作業を依頼する形では、障害者を自立させることは難しいと思う。
- (2) A型事業所として、利用者には一般就労にステップアップしてもらいたい。株式会社ネットワークではこれまでに11名が一般就労に移行している。
- (3) 岩浅代表は「室蘭・登別心身障がい者職親会（しょくおやかい）」の会長も務めており、障害者の自立支援を通じて社会や地域に貢献したいと考えている。

5 今後の課題や将来展望

- (1) 農園レストラン「大地のnima」は北海道内初の有機JASレストランとして認証を受けるために準備を進めている。認証されるためには料理毎に80%以上は有機JAS認証を受けた食材を使用する必要があるが、国産の有機畜産物は生産量が少なく、契約販売されていて市場に出回っていないことから、鹿肉（ジビエ）を使用するなど工夫をしている。
- (2) 農業部門だけで見ると赤字であり、造園業の利益により経営が成り立っている状況ではあるが、農産物やレストランの売上を伸ばすことで農業経営も軌道に乗せたい。単に障害者が生産した農作物ということだけをアピールするのではなく、販売する農産物自体の高い品質を付加価値としたい。